

愛知県庄内川で採捕されたクルメサヨリ（ダツ目：サヨリ科）

間野 静雄¹⁾・永田 直三²⁾

Records of *Hyporhamphus intermedius* (Beloniformes: Hemiramphidae)
collected from Shonai River, Aichi Prefecture, Japan

Shizuo Aino¹⁾ and Naozo Nagata²⁾

はじめに

クルメサヨリ *Hyporhamphus intermedius* (Cantor, 1842) は汽水域から淡水域、潟湖で一生を過ごし（瀬能, 1996）、国内では青森県から九州北部まで分布する（藍澤・土居, 2013）。本種は環境省レッドリスト 2020 において準絶滅危惧に区分されている（環境省, 2020）。伊勢・三河湾に流入する河川では岐阜県の揖斐川（岐阜県高等学校生物教育研究会, 1974；向井, 2019）、長良川（岐阜県高等学校生物教育研究会, 1974）で生息が確認されており、岐阜県は絶滅危惧 II 類に選定している（岐阜県, 2009）。愛知県では庄内川、三河湾に接続する汽水湖の油ヶ湍で生息が確認されているが（増田ほか, 1995；地村・朝倉, 2019；地村, 2020）、県内における本種に関する情報が少なく「情報不足」に区分されている（愛知県環境調査センター, 2020）。

特に、庄内川については本種が分布する河川とされているが（地村, 2015；2020）、採捕記録がほとんどなく、情報が不足している。本研究において新たに本種 3 個体を採捕し、標本として保存したので記録として報告する。

材料と方法

庄内川の西枇杷島町（河口から約 14 km）において、投網を用いて 2023 年 7 月 29 日に 1 個体、同年 8 月 27 日に 2 個体を採捕した。採捕した個体のうち 1 個体の画像を第 1 図に示す。個体の採捕は愛知県の特別採捕許可（4 特第 1585-1）を得て行った。各個体の体長、頭長、下顎長を 0.1 mm の単位で計測し、胸鰭軟条数、背鰭前方鱗数を計数し（第 1 表）、中坊（2013）に基づいて種を同定した。個体は 10% ホルマリンで固定



第 1 図. 庄内川産クルメサヨリ（2023 年 8 月 27 日採捕、標本番号 TMNH-F-2603）。スケールバーは 10 mm。

1) 静岡県掛川市倉真 2446-2. 2446-2 Kurami, Kakegawa, Shizuoka 436-0341, Japan.

2) NPO 土岐川・庄内川サポートセンター. NPO Tokigawa Shonagawa Support Center, 15-1 Kitabiwaike, Nishibiwajima-cho, Kiyosu, Aichi 452-0000, Japan.

Corresponding author: Shizuo Aino. E-mail: shi-zuonia@mbr.nifty.com

原稿受付 2024 年 10 月 31 日. Manuscript received Oct. 31, 2024.

原稿受理 2024 年 11 月 19 日. Manuscript accepted Nov. 19, 2024.

キーワード: 魚類相, 絶滅危惧種, 名古屋市, 感潮域, 魚類標本.

Key words: Fish fauna, Endangered species, Nagoya City, Estuarine basin, Fish specimen.

第1表. 各個体の計測値と計数値.

標本番号	TMNH-F-2603	TMNH-F-2604	TMNH-F-2605
採捕日(2023年)	8月27日	8月27日	7月29日
体長 (mm)	117.2	110.7	111.2
頭長 (mm)	25.1	23.3	23.4
下顎長 (mm)	36.7	33.5	34.3
胸鰭軟条数	11	11	11
背鰭前方鱗数	55	56	54

後、70%エタノールで保存し、標本として豊橋市自然史博物館に登録・収蔵した（標本番号 TMNH-F-2603～2605）。

結果と考察

各個体の計数ならびに計測値を第1表に示す。いずれの個体も下顎長が頭長より長く、胸鰭軟条数が11本、背鰭前方鱗数が54～56枚であることからクルメサヨリと同定した。庄内川における本種に関する記録については Jordan et al. (1925) に Nagoya の Kachi River で本種を採出したとの記述があり、丹羽 (1967) はこの場所を庄内川の勝川（河口から約 25 km 付近）と推定している。このことから、1920 年頃は本種が庄内川中流域に生息していたことが伺える。2014 年 8 月 15 日には庄内川の清須市西枇杷島町において投網により 1 個体が採捕され（問野、未発表）、三重大学大学院生物資源学研究科に標本として保存されている（標本番号 FRLM49147）。本研究における採捕地も西枇杷島町であり、付近は庄内川の感潮域最上流部にあたる。このことから、現在の主な生息域は西枇杷島町から下流の感潮域と推察されるが、採捕されることは稀であり、生息数は極めて少ないと考えられる。早急に庄内川における本種の生息状況を把握し、生息環境を保全する必要がある。

謝 辞

本稿執筆において有益なご意見をいただいた岐阜大学地域科学部の向井貴彦教授にお礼申し上げる。

引用文献

愛知県環境調査センター（編），2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 一動物編

- 一. 愛知県環境局環境政策部自然環境課，名古屋，768 p.
- 藍沢正宏・土居内龍，2013. サヨリ科. 中坊徹次（編），日本産魚類検索一全種の同定—第三版，東海大学出版会，秦野，651–654.
- 地村佳純，2015. クルメサヨリ. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課（編），名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや 2015 動物編，名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課，名古屋，172.
- 地村佳純，2020. クルメサヨリ. 愛知県環境調査センター（編），愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 一動物編一，愛知県環境局環境政策部自然環境課，名古屋，252.
- 地村佳純・朝倉美波，2019. 油ヶ淵で釣獲されたクルメサヨリ. 碧南海浜水族館年報，31：23–24.
- 岐阜県，2009. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）—岐阜県レッドリスト（動物編）—改訂版. <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/6591.html> (2024 年 10 月 1 日閲覧).
- 岐阜県高等学校生物教育研究会（編），1974. 岐阜県の動物. 大衆書房，岐阜，403 p.
- Jordan, D. S. H., Carl L. and McGregor, E. A., 1925. "Record of fishes obtained in Japan by David Starr Jordan in Japan, 1922." *Memoirs of the Carnegie Museum*, 10(2): 93–346.
- 環境省，2020. 環境省レッドリスト 2020. 131 p. <https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf> (2024 年 10 月 1 日閲覧).
- 増田元保・寺川 裕・島 達也，1995. 碧南市立西端小学校所蔵 油ヶ淵産魚介類標本. 碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館年報，9：25–32.
- 向井貴彦，2019. 岐阜県の魚類 第二版. 岐阜新聞社，岐阜，223 p.
- 中坊徹次（編），2013. 日本産魚類検索一全種の同定—第三版. 東海大学出版会，秦野，2428 p.
- 丹羽 弥，1967. 木曾川の魚：河川魚類相生態学下中流篇. 大衆書房，岐阜，293 p.
- 瀬能 宏，1996. クルメサヨリ. 川那部浩哉・水野信彦（編），日本の淡水魚 第2版，山と溪谷社，東京，424.